

宮古

ワイドーぱり

「活力ある農業」の意味（ワイドー=がんばれ、ぱり=畑）

発行所

宮古農林水産振興センター農業改良普及課  
〒906-0012 宮古島市平良字西里1125

TEL : 0980-72-3149

FAX : 0980-72-9751



## 宮古地区農業士会 組織活動紹介

宮古地区農業士会は、県知事から認定を受けた42人の会員（青年農業士3人、指導農業士32人、女性農業士7人）で構成されています。主に、就農志向者の農業研修受入や講師活動など、新規就農者や青年農業者の育成のために活動しています。

### 1. 農業研修生の受入

研修生や農業大学校先進農家派遣実習生の受入を行い、農家としての心構えや生産技術等、様々な面で指導を行っています。

### 2. 講座での講師活動

就農サポート講座や就農ステップアップ講座での講師活動や現地視察の受入を行い、就農志向者等へのアドバイスや指導を行っています。

### 3. 行政等との意見交換

市村や県、関係機関団体等の農業行政と担い手育成について意見交換を行い、新規就農者支援に努めています。

## 令和4年度 指導農業士等 新規認定

今年度は指導農業士4名、女性農業士1名が認定されました。また、これまでの農業士としての貢献に敬意を表し、名誉指導農業士として2名に感謝状が授与されました。認定式では指導農業士の代表者が挨拶を行い、「先輩たちから受け継いできたものを後輩たちへ引き継いでいきたい」と意気込みが語られました。農業担い手育成のリーダーとして、より一層の活躍が期待されます。



## ～多良間島情報～



### ～令和3年度農業粗生産額が18億円を突破～

令和3年度、多良間村は、さとうきびが約30年ぶりに3万トンを越える大豊作、肉用牛（繁殖）のセリ値維持、葉たばこの豊作等により、農業粗生産額が初めて18億円を突破しました。

平成29年の農業生産者大会で掲げた目標額18億円を、わずか4年目にして18億6千万円と目標を突破したことは、生産農家、関係機関一丸となった努力の賜物であり、島内では大いに労われ、多くの喜びの声があがりました。

この度の目標額達成を記念して、去る10月28日に「令和4年度多良間村農業生産者大会」が開催されました。今回の達成を祝いつつ、今後より一層の基幹作物の生産拡大、国営畑地かんがい施設整備による水あり農業実践に向けた高収益作物の生産振興、緑肥作物・堆肥活用による地力増進がスローガンとして掲げられ、次なる農業粗生産目標額20億円の早期必達に向け、生産農家及び関係機関が一体となつての取組事項が宣言されました。普及課としても、多良間村におけるより一層の農業振興に資するべく、普及活動を展開していきます。



令和3年農業粗生産額（単位：千円）

さとうきび	822,737
肉用牛	926,607
葉たばこ	103,242
かぼちゃ	6,070
その他	7,122
計	1,865,778

### ～多良間村団地牛舎農家への支援～

令和3年11月から、村内の繁殖肉用牛の若手生産農家や後継者等を対象に、担い手育成を目的とした団地牛舎で、4戸の農家が飼養を開始しています。利用から5年間での独立営農を目指し、目標を立てて意気込み、日々飼養管理に取り組んでおり、関係機関と連携しながら多良間村の畜産担い手育成に向けて支援しています。

去る10月5日、村担当者、県営農支援課専門員、普及課畜産担当とともに、飼養管理を点数化できるチェック表を用いた聞き取り、指導を各農家毎に実施しました。

日々の飼養管理を見直したり、適切な管理に向けて質疑応答や意見交換が活発に行われたりと、有意義な機会になったかと思われます。指導後のフォローアップも行いつつ、宮古島の農家との交流も検討するなど、資質向上に向けて各関係機関と連携しながら、引き続き支援していきます。

# かぼちゃの栽培管理について

今年度、11月の長雨の影響から、交配がうまくいっていない圃場がありました。雨天時の交配については、雌花に水をためないようにコップをかぶせ、人工授粉を行う等の対策が挙げられます。また、降雨によって病害発生リスクも高くなるため、しっかり対策を行い、大玉で品質の高いかぼちゃ生産を目指しましょう！

## 雨天時の人工受粉

### 対策のポイント

- ・雌花に水をためない
- ・受粉後、雌花をぬらさない

人工受粉は午前10時頃までには終わること



開花前日の雌花

コップを被せる

翌朝、コップを取って受粉

再びコップを被せる

## 問題となる病害について

### うどんこ病

#### 【発生生態】

葉に発生することが多く、通気不良・多肥・老化してくると発生が増加する。また、着果後に草勢が弱くなると被害が急激に広がる場合があるため、**予防および初期発生での防除を徹底する。**



症状が悪化



枯れ上がり

### 果実斑点細菌病（褐斑細菌病、軟腐細菌病 等）

#### 【発生生態】

雨の後に葉を観察すると小さな斑点症状が見られる。時間が経過すると褐色や白色の乾いた病斑となり、穴だらけの病斑になることも多い。果実では感染すると突起症状が認められる。



**降雨前後や収穫予定果実が開花する7～10日前（受粉前）に銅剤（+展着剤）を散布し、予防しましょう！！**

農薬散布を行う際は、必ずラベルの確認を行いましょう。

## 施設野菜・低温期の栽培管理について

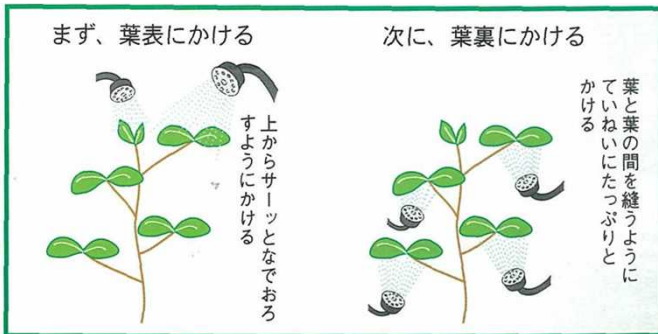
### 1: 今期の天気概況

気象庁が発表している3ヶ月予報(11~翌1月)および寒候期(12~翌2月)予報によると、今期(22/23)の沖縄地方は、**平均気温**(平年値:17.9)は**平年並または低い**、**降水量**は**平年並または少ない**見込みです。また、12月~翌2月にかけて**平年と同様曇りや雨の日が多い**見通しです。

[出典] 気象庁HP:3か月予報(R4年10月25日発表)、寒候期予報(R4年9月20日発表)  
上記の平年値については、観測地点は「那覇」の値を記載

### 2: 低温期の灌水肥培管理のポイントについて

曇天や雨の日などで天気の悪い日が続き、日照不足になると、**植物は光合成能力が低下し、根から肥料を吸収する力も低下**してしまいます。そこで、以下の対策を、オススメします。



かん水は午前中に行い、曇天や雨天時のかん水を控える。

アミノ酸等有機質肥料(シーブロテインなど)を追肥する。

特に草勢が低下している時は、アミノ酸等有機質肥料を**葉面散布**する(左図)

葉の裏は、表側の約20倍、  
養分を吸収します。  
ていねいに、たっぷり  
かけましょう!



### 3: 低温期に気をつけたい病害

#### 菌核病

病原菌は多犯性であるため、多くの**作物に感染**し、**低温多湿条件**で発生が増加します。

○過繁茂を避け、換気などで通気性をよくしましょう。

○病原菌は茎葉や枯葉等から侵入して、茎葉を腐らせるので、残渣はハウス外へ撤去しましょう。

○発生時には罹病部位に菌核が出来る前に除去して、薬剤を散布しましょう。



とうがん【左】、さやいんげん【右】での発病の様子



- ・ 農薬散布前に必ず最新の農薬登録状況使用条件を確認し、それを遵守する
- ・ 農薬散布後は使用した機材をしっかりと洗浄すること。
- ・ 使用後には記帳すること。

# マンゴー花芽分化期からの管理ポイント

## スケジュール散布を実施しましょう

炭疽病、軸腐れ病、すす点病等の病気の発生を防ぐためには殺菌剤による“予防”が必要です。12月から下の表を参考に、殺菌剤のスケジュール散布を実施しましょう。また、スケジュール散布と合わせて、ハウス内の風通しを良くしたり残渣の除去を心がけることで、より予防効果が期待できます。薬剤散布だけでなく、病気が発生しにくい環境づくりにも努めましょう。

生育ステージ	散布時期の例	対象病害	農薬名	備考
出蕾前～出蕾期	12月下旬	かいよう病	ICボルドー66D 又は、フジドーLフロアブル	クムラス、マシン油、ボルドーは互いに混用しない。
	1月下旬	炭そ病	ジマンダイセン水和剤	果実が大きくなってからは果皮が汚れやすいので早めに使う。
開花期	2月中下旬	炭そ病	オーソサイド水和剤80	果実が大きくなってからは果皮が汚れやすいので早めに使う。
開花期～結実期	3月中旬	軸腐れ病	スミレックス水和剤	果実に薬害が生じる事もあるので散布時間、方法に注意。
結実期～初期肥大期	4月中旬	軸腐れ病	スミレックス水和剤	
果実肥大期	5月上旬	炭そ病	アミスター10フロアブル	

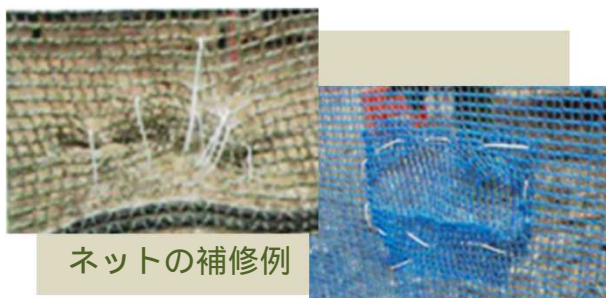
農薬を使用する際はラベルをよく確認しましょう。  
散布時期は上記を目安に自身の園地の状況によって適宜調整しましょう。

### 花芽分化期の管理

20 以下の温度が続くと枝の伸長が抑えられて、花芽分化が始まります。側面や妻面のビニールを開け、ハウス内の温度上昇を抑えましょう。

また、この時期の剪定は開花に影響します。剪定すると止まった新芽が動き出し、花芽分化ができない恐れがあるため、この時期は剪定は避けましょう。

ビニール被覆後は害虫が増えやすくなります。被覆前に除草やネットを補修して、害虫が増えにくい環境を整えましょう。



ネットの補修例

### ビニールを張るタイミング

ハウス全体の8割程度の枝が、レベルBまたはレベルCの状態になったらビニールを張りましょう。出蕾が見られない状態で保温すると、花も芽も動かない枝が多くなり着花率が低下することがあるので注意しましょう。



レベルA  
芽が閉じた状態  
着花率20%



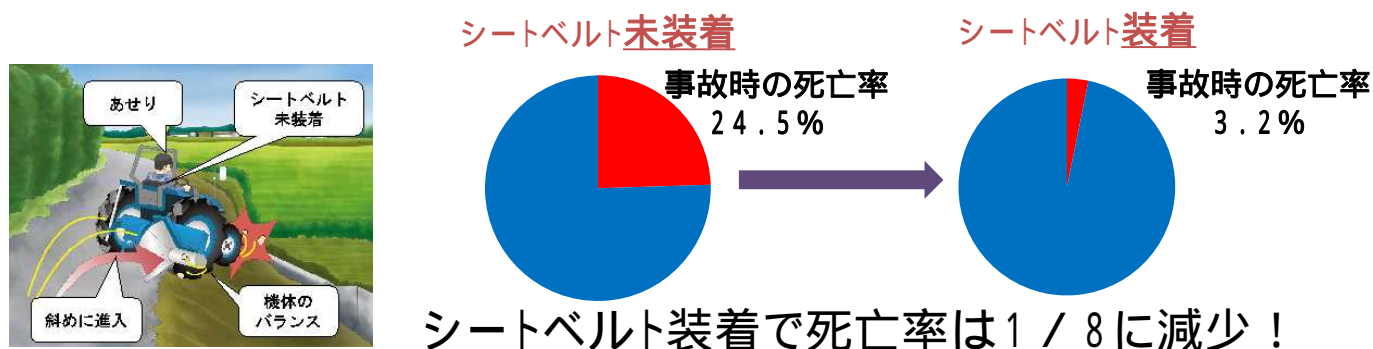
レベルB  
芽が割れた状態  
着花率70%



レベルC  
芽が膨らんだ状態  
着花率100%

## 農業機械の安全使用について

秋の農作業安全確認運動期間は9月～10月を重点的に行っています。全国の農作業死亡者数は年間300人前後で推移していますが、就業者あたりの死亡率は増加傾向となっており、全産業平均の約10倍に及んでいます。今年度は全国的に乗用トラクターのシートベルト装着推進を行っています。シートベルトの装着によりトラクターの横転時の圧死を大幅に低減できることが明らかになっており、令和4年度は『しめよう！シートベルト』を推進テーマに全国で一体となって農作業機械の死亡事故防止に向けた運動が展開されています。宮古地区でも、トラクター等の農作業機械の運転時には、お互いにシートベルト装着を呼びかける『声かけ運動』を実施し、死亡事故の発生を防いでいきましょう！



### トラクター事故防止のため注意しましょう！

- 安全フレーム又はキャビン付きトラクターを使用する。
- 運転時にはヘルメットを着用しシートベルトを締める
- 運転するときには、交通量の少ない一般道・農道を選んで通行する。
- よく走行する農道は、路肩や曲がり角の草刈りやポール設置により安全にする。
- 圃場の進入路・退出路は全て安全な幅・角度とし、進入路・退出路の手前は耕起しない。
- 段差乗り越えなどのときは、作業機を下げバランスを失わないようにする。
- トラクターに三角形の低速車マークや灯火器類を付ける。
- 圃場作業終了後は、ほ場を出る前に左右ブレーキを連結する。
- トラクターは定期的に点検を行う。
- ユニバーサルジョイントには、きちんとしたプラスチックカバーと回り止めチェーンを付ける。

農作業安全情報センター資料を加工して使用。